

シベリア、バイカル湖の蜃気楼～2019年3月～

魚津埋没林博物館 佐藤真樹

バイカル湖の蜃気楼は、日本蜃気楼協会の武田さんが2018年3月に確認し、同協会で報告した。2019年3月5日から10日までの期間で”空の探検家・武田康男先生行く シベリア・バイカル湖 6日間”というツアーに参加したのでその報告する。

バイカル湖の上位蜃気楼

バイカル湖の南西に位置する観光地、リストヴァンカの護岸で3月8日18時頃(現地時間、以下同様)から、対岸に見える霧(約35km先のタンホイ付近)や湖面(約60km先のバイカリスク方向)が反転して見える上位蜃気楼を確認した。さらに、9日0時頃に対岸(約35km先のタンホイ付近)の明かりの伸び上がり、反転を確認した(右写真、時刻はJST)。

現地ガイドであるオリガさんによると、バイカル湖では、蜃気楼を見るという風習は無い。また、(普段は見えない)”電車が見えたらラッキーといわれる”と聞いた。右写真はシベリア鉄道の通る町、タンホイ付近であり、ラッキーな電車が見えた日なのかもしれない。

バイカル博物館(BM ISC SB RAS)のバイカル湖周辺の気象の展示では、タンホイ付近では山谷風と海陸風の組み合わせた循環がある場所とされていた。3月8日のバイカル湖付近の風のデータを見ると、日中は湖風、夜は陸風となっていた。これらが蜃気楼に影響しているかもしれない。

バイカル湖の下位蜃気楼

バイカル湖での下位蜃気楼は、バイカル湖の中の島、オリホン島付近で過ごした3月6,7日、のほとんどの時間帯に確認できた。

ウオッカを用いた しんきろう水槽実験

Everett (1874, nature) のウイスキー蜃気楼実験を模してロシアウオッカ(Stolovaya, 比重0.96)と水でも同実験ができた。

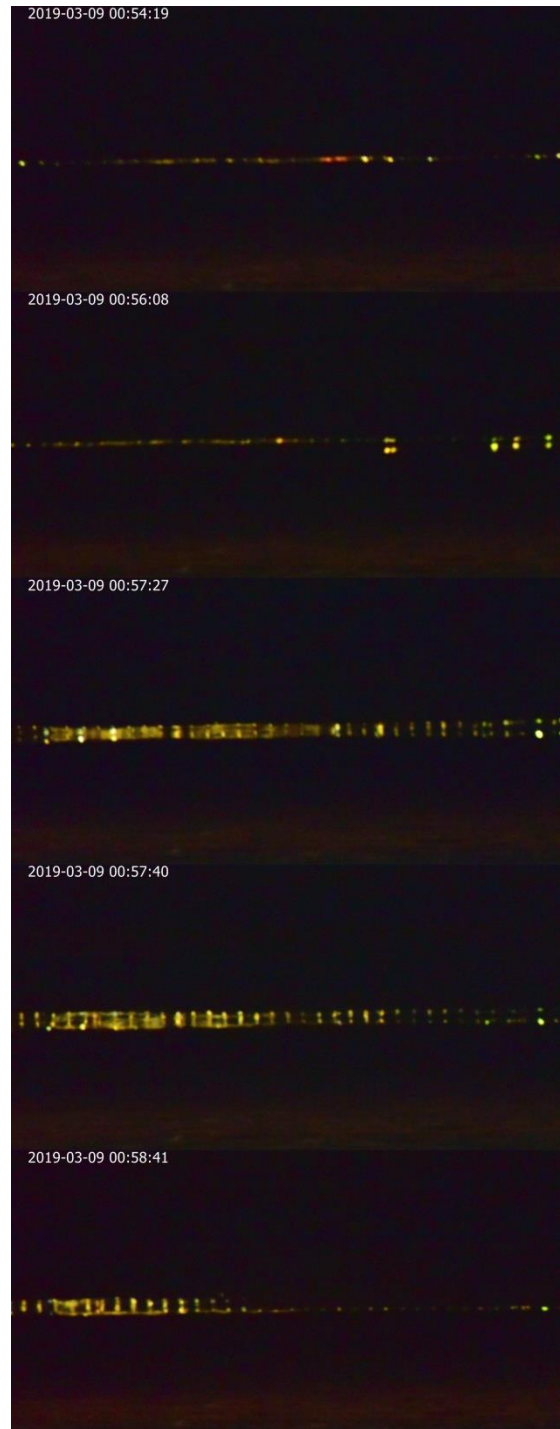


写真 リストヴァンカからみたタンホイ付近の町明かりの上位蜃気楼(2019年3月9日)